

東京都における長期療養高齢者  
の看取りの実態に関する調査  
【報告書】

平成25年度東京都医師会調査委託研究報告書

平成26年3月

## 東京都病院協会 慢性期医療委員会

委員長	桑名 齐 (信愛病院 理事長)
担当副会長	安藤 高朗 (永生病院 理事長)
委員	熊谷 頼佳 (京浜病院 理事長)
	進藤 晃 (大久野病院 理事長)
	高野研一郎 (高野病院 院長)
	竹川 勝治 (愛和病院 理事長)
外部委員	近藤 太郎 (近藤医院 院長)
	伊藤 政芳 (回心堂第二病院 事務局長)
	春日井 久 (永生病院 本部長)
	田島 弘康 (康明会病院 事務長)
	田野倉浩治 (永生病院 事務部長)
	千田 桃子 (永生病院 総合研究所)
	難波 眞 (信愛苑 苑長)
	萩原 守 (大橋病院 事務長)
	尾藤 秀規 (永生病院 理事長企画室)
	村山 正道 (陵北病院 事務長)
調査票集計	委託先 株式会社日本医療企画

# 「東京都の療養病床における高齢者の実態に関するアンケート調査報告書」

東京都病院協会  
慢性期医療委員会

## はじめに

超高齢社会を迎え、団塊の世代が後期高齢者になる2030年には、わが国の年間推定死亡者数が167万人（東京都では約13万人）と激増する。8割が病院で死を迎えている現状、医療機関や介護施設のベッド数や在宅看取りが増えない中で、はたして年をとってから安心して死んでいける場所はどこになるのでしょうか。

このたび、東京都病院協会慢性期医療委員会では、都内の高齢者の死亡場所を検討する目的で都内の病院、特に療養病床における高齢者の実態についてアンケート調査を行ったので報告する。

なお、本調査は東京都医師会の補助金で行った。

## 調査対象

調査対象258病院のうち、有効回答数は113件（43.8%）であった。

調査対象期間は、平成24年4月1日から平成25年3月31日までの1年間である。

## 調査結果

### I 回答病院の概要

対象病院の開設主体は、医療法人74%、社団・財団法人11%、社会福祉法人5%、個人5%、その他法人4%である。

許可病床数と入院患者数をみると、一般病床の利用率は74.3%、回復期リハビリテーション病棟が90.7%、医療療養病床が87.7%、介護療養病床が99.6%、精神病床が82.9%であった。

### II 患者の状態像と入退院経路

療養病床における患者の状態像は、医療療養病床では6,484人中、医療区分3が35.6%で、医療区分2が45.9%であった。また、介護療養病床では3,217人中、要介護5が64.8%、要介護4が26.2%であり、91.1%が重介護者であった。

認知症高齢者日常生活自立度では、要介護Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの合計が医療療養病床で77.9%、介護療養病床では89.3%も占めていた。

また、療養病床入院患者が急変した際の救急搬送例では、二次救急病院へ378人、三次救急病院へは239人、計617人あった。

療養病床からの退院先をみると、医療療養病床では死亡退院が48.6%と最も多く、次いで自宅退院が32.6%、老人保健施設、特別養護老人ホームが各々6.2%であり、他の医療機関への転院も6.2%（救急指定病院への転院4.8%）あった。

一方、介護療養病床からの退院は、死亡退院が58.3%と最も多く、そのほかでは他の病院への転院が13%(救急指定病院への転院7.5%)、特別養護老人ホームが10.2%、老人保健施設が7.3%、自宅退院は10.2%と医療療養病床に比べると少なかった。

どちらの療養病床においても死亡退院が多くを占めていたことは、重症あるいは重介護など医療度の高い高齢者が入院していることが明らかとなった。

### Ⅲ 回答病院の病床にて患者を看取られた数について

医療療養病床における高齢者の死因をみると、肺炎、悪性新生物、心疾患、老衰、脳血管疾患の順に多かった。

介護療養病床では(表3)、肺炎、老衰、心疾患、脳血管疾患、悪性新生物に順に多く、医療療養病床との違いがあった。

なお、医療療養病床での死亡者数は計5,247人、このうちの107人、および介護療養病床での死亡者数1,347人のうちの13人は自宅療養および施設から最期の看取りのためだけに入院したものであった。

### 考察

平成24年4月1日から平成25年3月31日の調査期間で、医療療養病床からの死亡退院者は48.6%であったが、これは平成25年日本慢性期医療協会の全国調査による医療療養病床での平均死亡退院37.8%に比べて高い数値を示した。

一方、介護療養病床からの死亡退院者は58.3%と多く、日本慢性期医療協会全国調査の36.9%に比べると格段に高い割合を占めていた。

さらに、生死は確認できていないものの、療養病床からの救急搬送が617人あった。

### まとめ

2030年国の推定死亡データ(図3)から東京都の死亡者数を推測してみると、年間約13万人であり、死亡場所別死亡者数は病院を主とした医療機関で70,122人と現状より減少し、介護施設では7,085人に増加、自宅は19,890人となるが、最大の問題は、その他が37,024人になることにある。これらをさまざまな高齢者住宅で看取ることができればよいのだが、はたして可能であろうか。

今回の調査結果から、特に東京都内の療養病床における看取り率は全国平均に比べてはるかに高い。これは、東京都の療養病床数が不足していることに起因するのだろう。

こうした課題が解決されないままに、病院の再編がなされようとしている。われわれの役割は、よりよい医療や介護サービスで都民の幸せに寄与することである。すなわち、この先、団塊の世代を中心とした高齢者が安心して暮らし、安心して死ぬことができるように新たな地域包括ケア病棟も含めた病院機能の見直し、機能別病床数の再検討、介護施設の看取り機能の見直し、そして在宅医療・ケアの格段の充実などを含めた地域包括ケアシステムの構築を急がねばならない。

調査結果（調査対象期間は平成24年4月1日～平成25年3月31日まで）

調査対象病院：258件

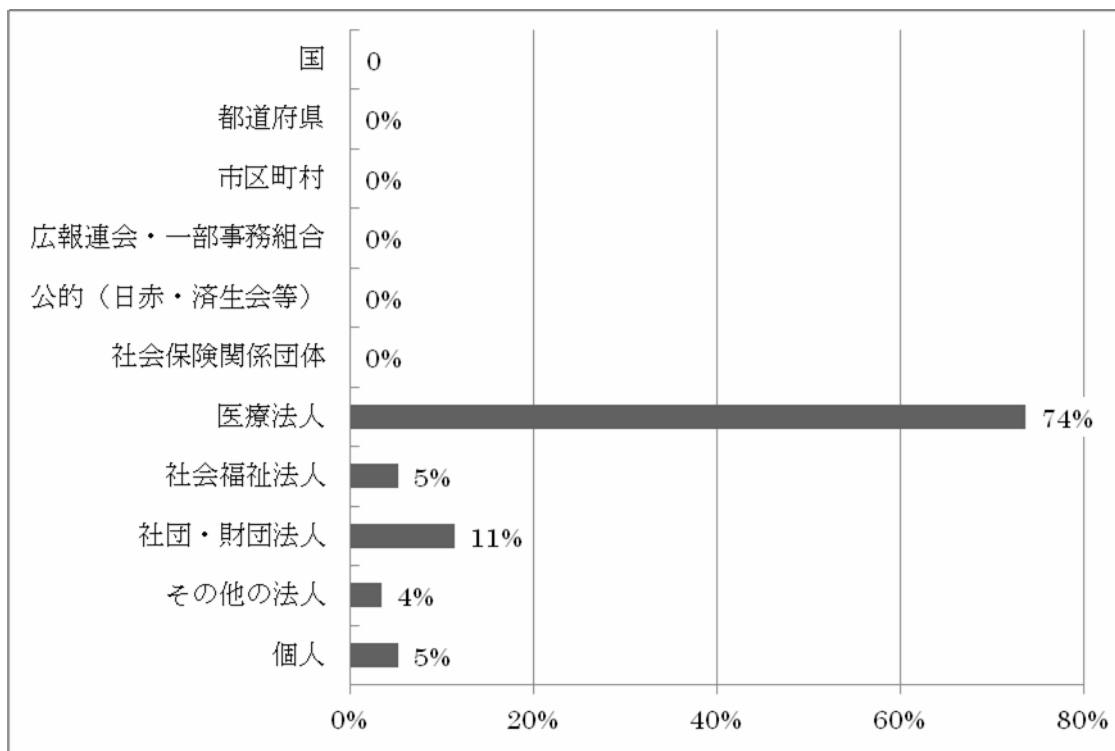
有効回答数：113件

有効回答率：44%

**I 回答病院の概要**

問1 回答病院の開設主体について

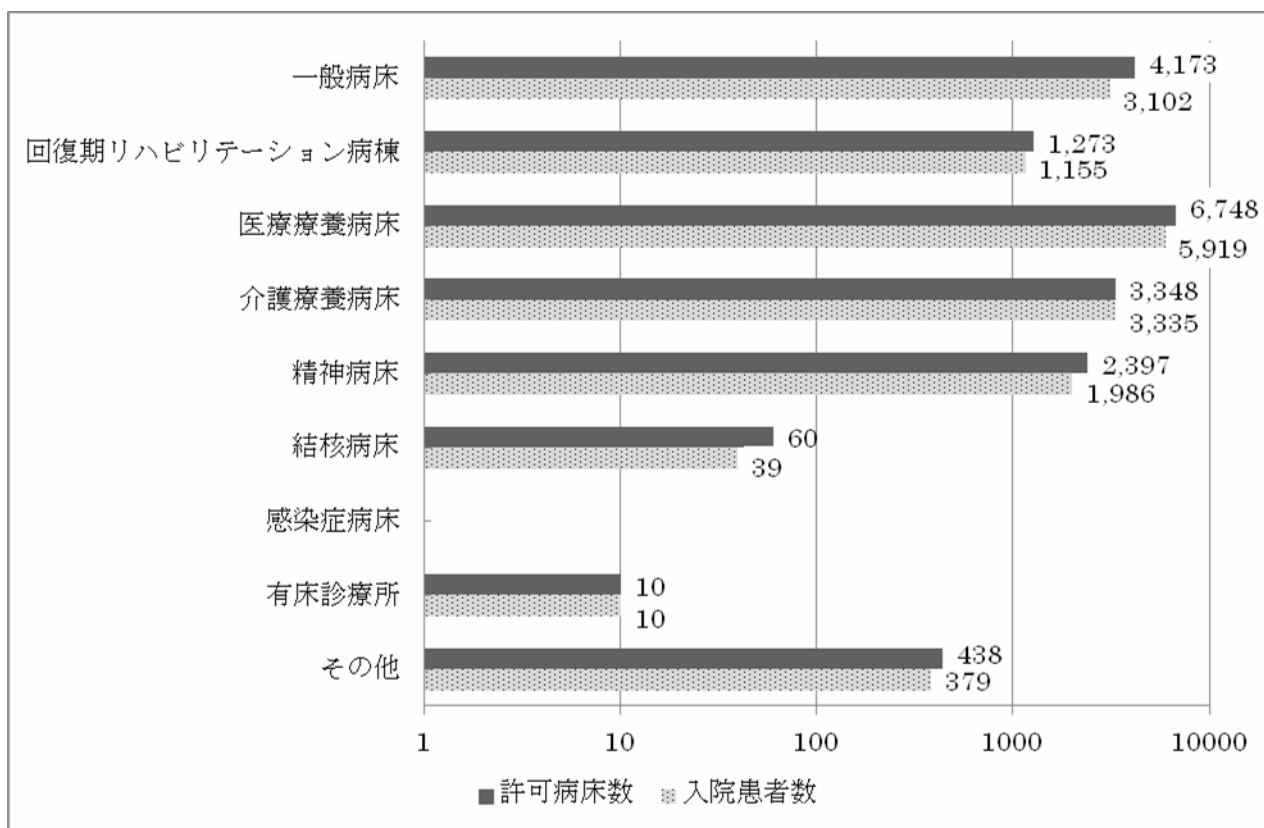
※期間：平成25年3月31日時点



	件数
国	0件
都道府県	0件
市区町村	0件
広報連会・一部事務組合	0件
公的（日赤・済生会等）	0件
社会保険関係団体	0件
医療法人	84件
社会福祉法人	6件
社団・財団法人	13件
その他	4件
個人	6件

問2 回答病院の許可病床数・入院患者数

※期間：平成25年3月31日時点



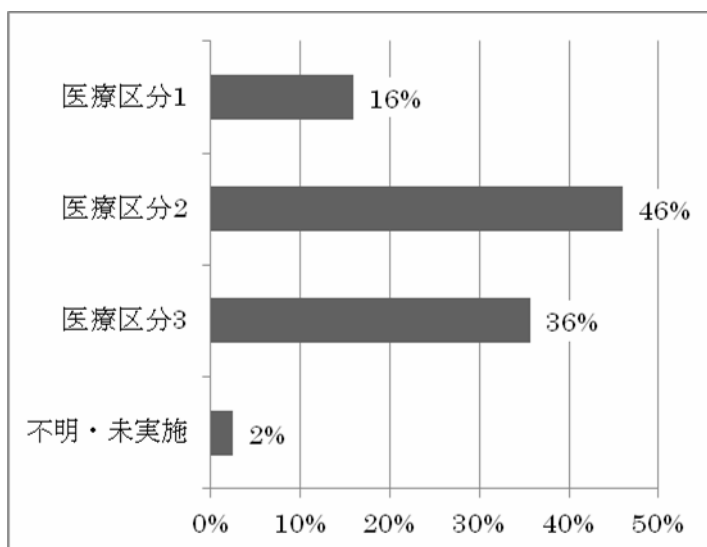
	許可病床数	入院患者数
一般病床	4,173床	3,102人
回復期リハビリテーション病棟	1,273床	1,155人
医療療養病床	6,748床	5,919人
介護療養病床	3,348床	3,335人
精神病床	2,397床	1,986人
結核病床	60床	39人
感染症病床	0床	0人
有床診療所	10床	10人
その他	438床	379人
合計病床数	18,447床	15,925人

## II 患者の状態像と入退院経路

### 問3 医療療養病床・介護療養病床における患者の状態像

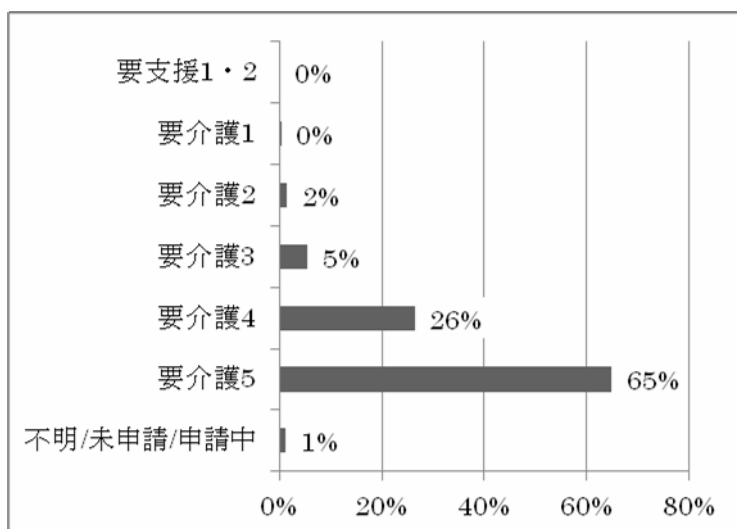
※期間：平成25年3月31日時点

#### ■医療区分



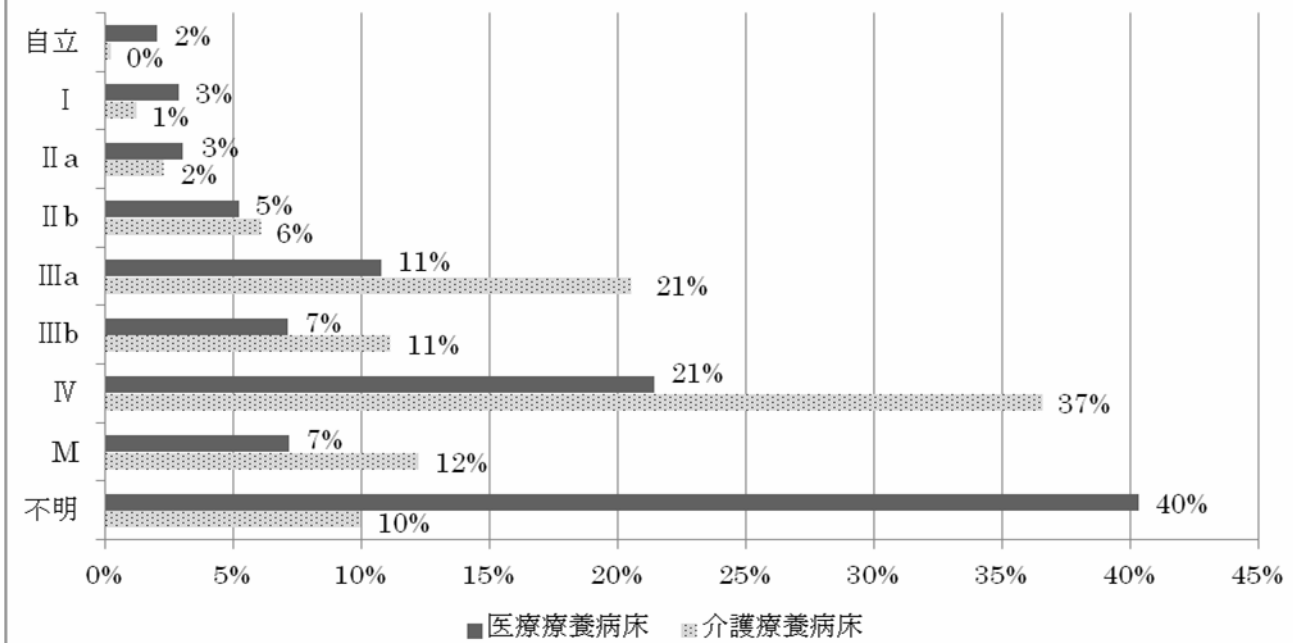
状態像	人数
医療区分1	1,033人
医療区分2	2,979人
医療区分3	2,311人
不明・未実施	161人
合計人数	6,484人

#### ■要介護度



状態像	人数
要介護支援1・2	0人
要介護度1	12人
要介護度2	49人
要介護度3	172人
要介護度4	808人
要介護度5	1,996人
不明/未申請/申請中	42人
合計人数	3,079人

### 日常生活自立度（医療・介護療養病床）



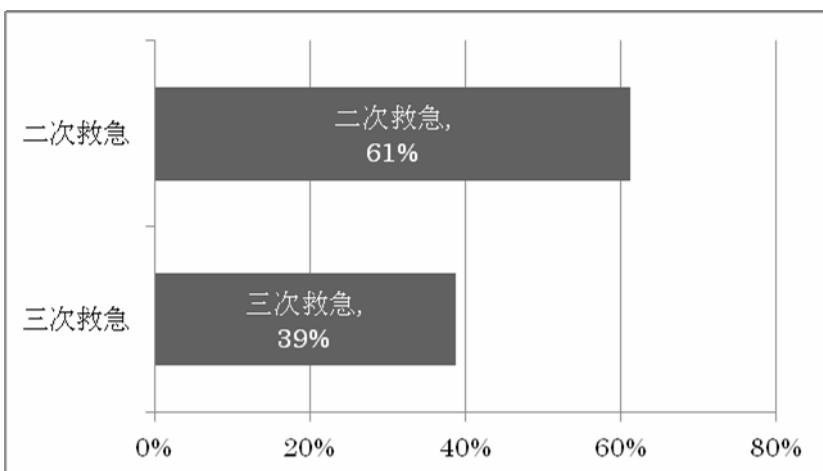
### ■認知症高齢者日常生活自立度（医療・介護療養病床）

	医療療養病床	介護療養病床
自立	94人	5人
I	134人	33人
II a	140人	63人
II b	242人	169人
III a	499人	574人
III b	329人	311人
IV	993人	1,023人
M	332人	342人
不明・未実施	1,867人	279人
合計人数	4,630人	2,799人



問4 入院患者急変時における救急指定転院先

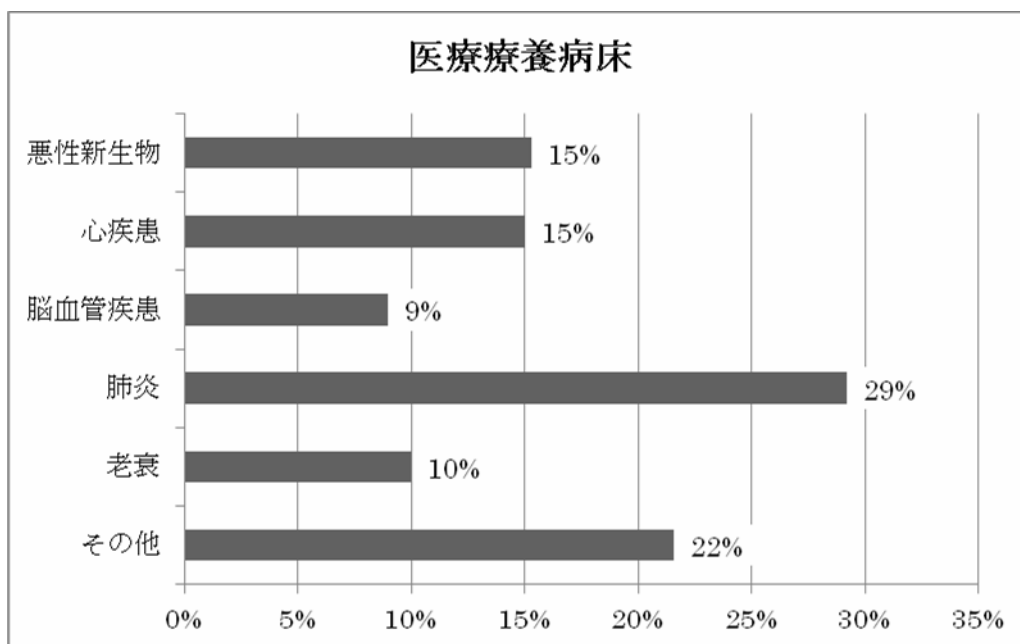
※期間：平成24年4月1日～平成25年3月31日の1年間



	転院人数
二次救急病院	378人
三次救急病院	239人
合計人数	617人

Ⅲ回答病院の病床にて患者を看取られた数について

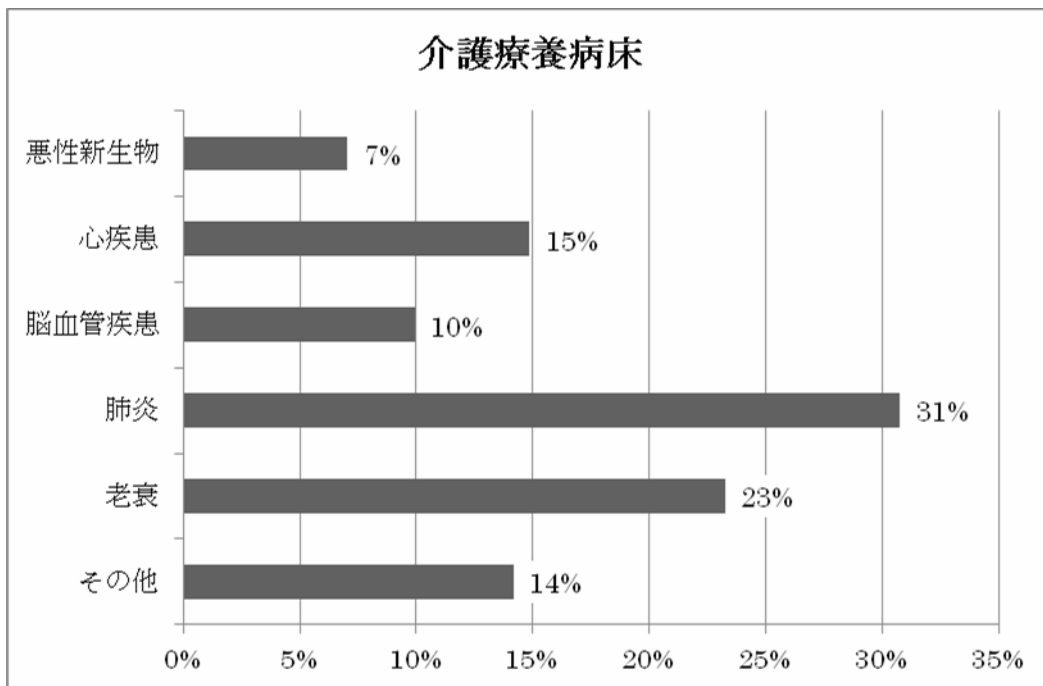
問5 医療療養病床における死亡原因



※自宅療養者及び施設からの看取りを受けた人数：107人

	看取り数
悪性新生物	802人
心疾患	789人
脳血管疾患	470人
肺炎	1,532人
老衰	523人
その他	1,131人
合計人数	5,247人

問6 介護療養病床における死亡原因



※自宅療養者及び施設からの看取りを受けた人数：13人

	看取り数
悪性新生物	95人
心疾患	200人
脳血管疾患	134人
肺炎	414人
老衰	313人
その他	191人
合計人数	1,347人

療養病床別の退院患者  
の退院先（死亡含む）

	医療療養病床	介護療養病床
自宅等	3,393人	247人
老人保健施設	643人	178人
特養	637人	253人
死亡	5,056人	1,415人
その他	631人	316人
2次救急医療機関	380人	161人
3次救急医療機関	119人	21人
不明	46人	19人
退院総数	10,406人	2,428人

アンケート用紙

○設問上にて特に断りのない限り、平成 25 年 3 月 31 日時点の状況をお答え下さい。

**I 貴院の概要**

問 1	貴院の開設主体について、該当するもの 1 つに○をつけてください		
01 国	05 公的（日赤・済生会等）	09 社団・財団法人	
02 都道府県	06 社会保険関係団体	10 その他の法人	
03 市区町村	07 医療法人	11 個人	
04 広報連会・一部事務組合	08 社会福祉法人		

問 2	平成 25 年 3 月 31 日時点における、貴院の許可病床数・入院患者数をご記入下さい。	
	病床の種類	許可病床数
	入院患者数	
①一般病床	床	人
②回復期リハビリテーション病床	床	人
③医療療養病床	床	人
④介護療養型病床	床	人
⑤精神病床	床	人
⑥結核病床	床	人
⑦感染症病床	床	人
⑧有床診療所	床	人
⑨その他	床	人

## II. 患者の状態像と入退院経路

問3	平成25年3月31日時点の医療療養病床、介護療養病床それぞれにおける患者の状態像（医療区分・要介護度・認知症高齢者の日常生活自立度）についてご記入ください。				
	医療区分				
	合計人数	医療区分1	医療区分2	医療区分3	不明、未実施
医療療養病床	人	人	人	人	人

※医療区分について、各区分別の該当人数をご記入ください。

	要介護度							
	合計人数	要支援 1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	不明/未申請/ 申請中
介護療養病床	人	人	人	人	人	人	人	人

※「申請中」には、区分変更中の場合や、入院時点で区分未決定の場合を含みます。

	認知症高齢者の日常生活自立度									
	合計 人数	自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	不明 未実施
医療療養病床	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
介護療養病床	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

※認知症高齢者の日常生活自立度については、別紙「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」をご参照ください。

問4	平成24年4月1日～平成25年3月31日の1年間に入院患者急変時における救急指定病院の転院先についてご記入ください。	
	救急指定種類	転院人数
	二次救急	人
	三次救急	人

追加調査票

	<u>医療療養病床</u>	<u>介護療養病床</u>
退院総数	人	人
自宅等※ (居住系介護施設含む)	人	人
老人保健施設	人	人
特別養護老人ホーム	人	人
死亡	人	人
その他	人	人
第2次救急医療機関	人	人
第3次救急医療機関	人	人
不明	人	人

※居住系介護施設とは①有料老人ホーム②サ付高齢住③特定施設④グループホーム等を指します

### Ⅲ. 貴院の病床にて患者を看取られた数について

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日の 1 年間に亡くなられた方について、ご回答下さい。

#### ○医療療養病床

問 5	医療療養病床において亡くなられた方の死亡原因をご記入ください。					
合計人数	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰	その他
人	人	人	人	人	人	人
※自宅療養者及び施設からの看取りを受けた人数_____人 (注：施設とは、特養・老健・サ高住・特定施設・GH 等)						

#### ○介護療養病床

問 6	介護療養病床において亡くなられた方の死亡原因をご記入ください。					
合計人数	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰	その他
人	人	人	人	人	人	人
※自宅療養者及び施設からの看取りを受けた人数_____人 (注：施設とは、特養・老健・サ高住・特定施設・GH 等)						